

令和8年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果						
事業名		地域の活力とデジタルの力で銚田をあなたの「目的地」へ！～ReDstination HOKOTA Project～				
事業の概要		【事業概要】 市の保有する資源を活用した市独自のラーケーション向け観光コンテンツの整備、デジタルコンテンツ「VTuber」を活用した包括的シティプロモーションを推進するとともに、市シティプロモーション情報発信体制の強化に取り組む。 【事業目的・効果】 ・市の自然やアウトドア環境等を活用した「ラーケーション」向けの観光コンテンツを整備することで、平日の観光誘客を促進し観光消費の増加を図る。 ・「VTuber」を活用したシティプロモーションを実施し、若年層を対象とした観光誘客を促進することで、市内観光消費の底上げを図る。 ・既存の「農業×観光」や、「ラーケーション」、「VTuber」など、市の観光等コンテンツ情報を集約し発信する、総合情報発信体制を整備することで、多方面のターゲットに対して適切に市内観光等情報を発信する。				
事業の評価		実績値を踏まえた事業の今後について				
評価		評価に対する意見・理由		今後の方針	今後の方針を選んだ理由	
①取組事業がKPI達成に有効であった	11	・市内観光地を周遊するデジタルスタンプラリー事業と市内飲食店で使用できるデジタルクーポン事業を実施し、観光振興を図ることができ観光誘客及び拡大を図ることができたと思います。 ・やることに、意義はあったと思いますが、今後、デジタルクーポンも良いが、PAY PAYの効果のほうが地域住民や物価高などへの効果も絶大ではないか。 ・ラーケーション制度を活用した観光コンテンツの整備し親子層をターゲットにした事業は銚田市の観光資源のアピールや一定数の観光誘客数の増加につながることでできた。デジタルクーポン事業は市全体として深堀が必要であると考ええる。 ・農業、カヌーなど銚田にしか体験できない取り組みは良いと思う。リピーターを増やすべき。 ・事業の実施によりKPIの向上が図られている。 ・デジタルクーポン事業については、飲食店16店舗において1364件の利用があり、実施期間内に予算上限で終了しており、誘客促進につながる結果が出ているので、活性化への有効性あったと考えます。その他、ラーケーション事業については、9割近くが市外から参加しているという事で、銚田市の観光PRにも繋がっていると思います。 ・デジタルスタンプラリーが624件、クーポン利用が1364件といった具体的な数字は、市内での消費や人の動きを可視化させた点において有効でした。特にVTuberの活用やSNS動画の配信は、従来の広報では届かなかった若い世代へ銚田の魅力を届けた実績として評価できます。 ・ラーケーションを利用して、平日に市外からの来訪者が訪れているため。 ・ラーケーションを活用した事業がよかった。特に親子で体験できる内容であったこと。 ・デジタルクーポンは、アンケートの内容に市外から来たのか、市内から来たのかわかるようにできればよいと思う。また、予算のこともあると思うが、長い期間で実施してもらいたい。または分割などで実施。 ・県外フェアや市内イベントについて、実施内容や開催実績に加え、来場者数や商品の注文・購入数、アンケート結果、SNSでの反応など、具体的な実績値が示されると、KPI達成への効果をより客観的に評価できると感じました。		①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)	5	・5月にメロンフェスティバルを行ってほしい。やはり銚田市のメロンは日本一なのでPRを兼ねお願いしたい。スタンプラリー、クーポン事業の実施期間をメロン収穫時期に合わせてほしい。予算もあると思いますがもっと予算と期間を増やしてほしい。 ・継続的に計画した事業を進めることで、その後の効果を計るうえで必要な事である。 ・銚田市の魅力的資源を市民が認識できるよう全庁挙げて取り組み事業の深堀が必要であると考ええる。 ・デジタルを使って良いモノは出来たが、それをどう周知させるかが課題である。一部の人だけでなく大衆に知らせる方法を考えるべき。デジタルには、デジタルの広告ではなくありふれたデジタル広告の逆をつき、アナログ的な広告(チラシ、ポスター、中吊りなど)直接人の目に入る広告も必要であると思います。 一部の人だけが体験しても、もったいない事業。これをどう人による口コミで広げるかがカギである。 ・会議中でもお願いしたが、メロンフェスティバルの復活、また現在遊泳できない大竹海岸もイベントを開催する場所としてたくさん活用してほしい。できたら車やバイク関係のイベントを望む。
				②特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続)	3	・VTuberを活用していることは今まで知らなかった。知られていなければ意味がないので、PRに努めてほしい。 ・各事業で誘客促進に繋がっており、こうした活動は継続して、拡大していく事で効果があがってきますので重要だと考えます。1点、デジタルクーポン券については、予算をあげて、市外からの誘客も狙った方が良いと思いました。 ・ラーケーションについては、まだ採用していない自治体があるため、ラーケーションを採用する自治体の増加による来訪者の増加が見込まれるため。
				③事業内容の見直し(改善)を行うべきである	4	・この取組みで定量的な目標と達成による具体的にどのKPI達成に効果を発揮するのか、ロジックをよく熟考する必要があると思います。 ・東関東自動車道の全線開通を控え、単なる一過性のイベント集客となつては、「ストロー効果」などの流出リスクに対抗できないと思われます。今後は、デジタル上の数字を「実際の店舗への継続的な来訪」や「2拠点居住の検討」といった、より深い関係性に転換させるための取り組みを強めるべきではないでしょうか。 来訪者が銚田市の農業に日常的に依存するような、継続性の高い仕組みへの改善が必要と考えます。 ・大きな事業変更は必要ないと思いますが、各事業の目的やターゲットをより明確にし、具体的な目標を細分化・数値化した上で、成果を確認できるような事業設計に改善できるとよいと思います。現状では「何を実施したか」という実績報告が中心で、その取組がなぜ成果につながったのか、あるいは成果につながらなかったのかを検証することが難しいと感じます。取組ごとの成果を具体的に把握できるようにすることで、KPIの達成状況だけでなく、その要因まで分析でき、今後の事業改善やより効果的な取組につなげられると考えます。
				④事業実施を中止すべきである	0	
無回答	0			無回答	0	
有識者評価に対する事業担当者コメント						
各種事業に対し、貴重なご意見をありがとうございました。事業実施にあたり、その周知方法やターゲット層へのアプローチ方法については、今後はSNSやVTuberを活用したPRを実施するなど、より効果的な方法を検討していきたいと考えます。 また、今後も継続的に事業を実施していく中で、KPIの数値目標の達成とともに、継続することで発生するリピーターの数も調査し、どのような事業が市内への観光誘客に効果があるか検証することで、誘客効果の高い事業実施を図っていききたいと思います。						

令和8年度 第1回 銚田市まち・ひと・しごと創生有識者会議 委員による地方創生推進交付金事業の評価結果					
事業名		ふるさと意識醸成事業～誇れるまちの創生へ～			
事業の概要		【事業概要】 「農業」をフラッグシップとしたふるさと意識醸成に取り組むとともに、地域と若者の繋がりを重視した事業を展開することで定住促進を図る。 農業をフラッグシップとして、地域とのつながりに重点を置き、ターゲットを絞って次の事業を連続的に取り組むことで若者の転出抑制、定住促進へ効果を高めていく。 【事業目的・効果】 ・小中学生へ「農業」や「野菜」を活用した「シビックプライド」の醸成、「農業」への好感度を高める。 ・高校生・大学生等に対し、地域の企業や人を知ってもらうことで将来の故郷での就業の意識づけや同年代との繋がりをつくる。 ・地域で活躍する女性から若者の求める環境やニーズを拾い上げ、定住支援策を検討推進していく。			
事業の評価			実績値を踏まえた事業の今後について		
評価		評価に対する意見・理由	今後の方針	今後の方針を選んだ理由	
①取組事業がKPI達成に有効であった	11	・新規就農者数R7年236人、若者移住者数R7年348人と伸び今後とも続けてほしい。	①事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させるべきである(事業拡大)	6	・親子工場見学にJA施設を対象に入れて下さい。
		・初めての手探りの事業なので今後の事業展開に期待したいと思います。			・今後、有識者会議とは別に若者や学生の意見を聞く会議の創設も必要ではないか。
		・子どもたちに食を教えるのは良い取り組み。中高生たちに銚田の人と仕事の交流はよい事業です。			・鹿島灘海浜公園でのイベント出展・野菜PRのブースを見たが、いかにもつまらなさそうで入る気にならない。もっと、若い人にウケやすい入り口を作っていくべき。子どもたちにもっと地元の人間の良さと、働きやすさなどを伝えて、戻ってくる故郷を目指す。地元の活躍する先輩が良い見本になると思う。
②取組事業がKPI達成に有効とは言えなかった	1	・事業の実施によりKPIの向上が図られている。	②特に見直しの必要がなく、今後も事業を継続すべきである(事業継続)	2	・女性や学生向けの支援を拡充してもらい、今後も経過を見たい。
		・説明時にも具体的などのKPIに効果を発揮したのかは、時間を要するとのお話がありました。取組み継続によりロジックを確認して頂きたいとは思いますが、取組み自体は素晴らしいと思います。			・評価に対する意見理由のとおり、継続により効果を発揮するロジックを是非確認してください。
		・子供の頃から、地元の農産物に触れ、良さを体感し関心を高めることは郷土愛の醸成に繋がりますので、長期的な活動として良いと考えます。また、高校生や学生が地元企業や公務員から話を聞くことは、Uターンを意識するきっかけになる活動だと思います。			・女子トークでは女性ならではの考え方で銚田だからできる、銚田から成功したなど市の魅力の創出や発信ができれば良いと思う。
③事業内容の見直し(改善)を行うべきである	2	・子どもから大人まで、地元の農業の価値を再発見し、語り合う場を設けたことは、「このまちで生きる自信」を育む上で重要な試みです。特に高校生や若手社会人が地元の大人と本音で語り合うことは、将来の定住を促す機会として、一定の成果があったと評価できます。	④事業実施を中止すべきである	0	
		・地元のことについては、日常のことなので普段意識をする機会がないままとなっているが、意識づけの機会として有効と思われるため。			
		・銚田の子どもたちに地元の野菜を知ってもらうためのさまざまな事業がとても良い。これからも継続してほしい。講師をされる地元農家さんほどのような基準で選ばれているのですか。			
④事業実施を中止すべきである	0	・KPIの数値は改善傾向にあり、取組全体としてKPI達成に有効であったと評価します。一方で、現在の報告では事業の実施内容や実績の紹介が中心となっており、個々の事業がKPIの改善にどのように寄与したのか、その関連性や要因が分かりにくいと感じました。今後は、事業ごとの成果をより具体的に示すことで、効果検証や次の取組への改善につながることを期待します。特に、カゴメとの連携による子どもたちへの食育や、地域で野菜を多く生産するという本市ならではの取組は、大きな強みだと感じました。市とカゴメが共同で学会発表まで行っていることや、市内イベントでも継続的にブースを出展している姿は、地域の魅力を市内外に発信する取組としても大変意義があると思います。今後もうこうした地域ならではの連携を大切にしながら、継続・発展していくことを期待します。	③事業内容の見直し(改善)を行うべきである	2	・こうした活動を継続していく事で中長期中で効果があがってきますので重要だと考えます。
		・今後の銚田市を支える小中学生の愛着度が下がっていることは、将来の銚田市にとって定住促進には繋がらないと思われることから、今後、銚田市に必要な施設、事業等の具体的なアイデアを小中学生にアンケートを取って、若者の考え方を参考にすると良いと思います。			・小中学生については、将来答えがでるものであるため、短期的な取り組みでは効果が検証できないため継続をする必要がある。 高校、大学への進学などで市外に出る人がいることはやむを得ない分、将来は銚田市に戻ることも、選択肢に入れられる意識づけが必要である。
無回答	0		無回答	0	
有識者評価に対する事業担当者コメント					
・ふるさと意識醸成事業については、地域の強みである農業・野菜などの地域資源を活用するとともに、地域で活躍する人、地元企業等と連携し、幅広い世代が銚田市の魅力を知り、地域とのつながりを持つ機会を創出を図ってきました。今後も、若者や女性をはじめ、幅広い層の意見やニーズを取り入れながら、銚田市への愛着や誇りの醸成につながる効果的な事業展開を図りたいです。 ・また、若者が進学や就職等により市外へ転出することを前提としつつも、将来的に銚田市に戻ることや、地域と関わり続けることを選択肢として持ってもらえるよう、若者との継続的な接点づくりや、地域で活躍する先輩・企業等との交流を進めていきたいです。 ・今後の事業実施においては、KPIの数値目標の達成状況だけでなく、事業への継続的な参加や地域とのつながりなど、事業を通じた意識や行動の変化についても把握・検証し、各事業がふるさとへの愛着や定住意識等にどのようにつながっているのかを分析し、その結果を今後の事業展開に反映することで、事業のさらなる充実・発展につなげていきたいと考えます。					